

2023年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答

(回答者)

代表取締役社長 櫻井 昭彦

取締役 上席執行役員 (管理管掌) 長谷川 智昭

<質問1>

今期は増収減益の予想ですが、その理由を教えてください。

<回答1>

(長谷川)

全体としては色々と入り繰りがあるのですが、増収減益の要因として一番大きな部分は電力事業セグメントにおける燃料ビジネスで、売上高への影響は大きいものの採算性が低く、業績へのインパクトが大きいです。

<質問2>

上期に持分法投資損失が4億2,100万円出ていますが、こちらの内容を教えてください。またこちらは期首に見込んでいたのか、下期にも発生する見込みがあれば教えてください。

<回答2>

(長谷川)

持分法損益予想・実績については下記の通りです。

2023年3月期上期 期首予想：▲222百万円 実績：▲421百万円

2023年3月期下期 予想(見直し)：▲22百万円

2023年3月期通期 予想(見直し)：▲443百万円

**【補足説明】**

持分法投資損失は、発電事業を行っている名南共同エネルギー(株)の業績が主要因です。同社は石炭価格の想定外の高騰により、期首見込みより上期は採算が悪化しました。

下期は小幅であるものの石炭価格の戻りと、一部ユーザー向け電気販売単価の値上げが出来た事等から採算性が大きく改善し、赤字幅が大幅に減少される見込みです。引続き、収支改善に向けて取り組んで参ります。

<質問3>

期首予想に比べて持分法投資損失が増加しているものの、通期の当期純利益の予想に変更が無いという事は、何か利益を見込んでいるのでしょうか。

<回答3>

(長谷川)

上期同様に下期も政策保有株式の売却益を見込んでおります。

<質問4>

来期の見通しについて教えてください。

<回答4>

(櫻井)

現在次期中計を検討中で、来年3月を目途に発表させて頂きたいと考えております。数字についてはまだ十分にお話出来る状況ではありませんが、全体感としては、電力事業は新たな商権獲得や一部株式投資も見込んでおり、見通しは明るいと予想しています。産業機械事業は子会社の日本ダイヤバルブ(株)が好調に推移し、現進行期並みの見通しです。一方、中国・東南アジアの子会社は十分な営業活動が出来ておらず、商談そのものも停滞しており、来期も現進行期同様の状況と見越しておりますが、全体として現進行期並みと考えております。

<質問5>

決算説明の中で、日本ダイヤバルブ(株)の増産体制構築の検討を開始したとの事でしたが、増産体制を構築することは確定なのでしょうか。また、いつ頃を目途とされていますか。

<回答5>

(櫻井)

まだ詳細は検討中ですが、同社の主力工場は東京都品川区にあり、土地の制限等もありますので、どちらかと言えば生産ラインの組み換えや効率性の向上が中心になるかと思えます。具体的なところはまだ公表出来ませんが、確定しましたら決算説明会等でご説明出来ればと考えております。

<質問6>

10月末に光通信(株)より大量保有報告書が提出され、同社の貴社株式の保有割合が10.38%となりましたが、こちらについてどの様にお考えでしょうか。

<回答6>

(櫻井)

光通信(株)様とは情報提供や定期的なコンタクトさせて頂いております。当社としましては、確りと業績を上げて安定的配当を行いご期待に沿うよう引続き取り組んで参ります。

(将来の予測に関する注意事項)

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、もしくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。